# 孝経

内閣文庫
和書
類三二七五九號
八冊
一四一函
五架

内閣
210
内閣文庫
番號 和 32759
冊數 8 ( 4 )
函號 141 86

国立公文書館
National Archives of Japan

1941210

内閣文庫

# 武江年表巻之四

四德元年　辛卯　五月七日改元

正月四日未刻芝土器町（かわらけ）（本名源兵衛町といふ）より出火西北風に随ひ北方に延て
芝高輪に至て武家町屋ともに数焼焼切鎮る

○正月十九日牛込和泉町より出火乾風烈しく霊巌洞に及ぶ
養父焼失ること又十町計り焼る○正月廿五日円光大師五百年忌あり　東漸大師の
遺号を贈る○二月江州土山田村に軍像流布して騒擾
○二月下旬（しものたち）沈の辺より出火西北風烈しく延焼万町に及ぶ（初焼宗不）
○二月十五日より五月まで橋場総泉寺にて梅花九州森氏
の七百世二年忌にて回向あり（本母寺縁起によれば七百世五年なり）

○二月羽田要津流出流失弁才天勧請有る家不幸
　　之縁ことわり
○二月五日より六月廿日まで永代橋ふる く房州清澄寺虚空
蔵井宝帳○夏中より回向院にて四月八日市場不動尊宝帳
この時あぶら揚屋清松屋三左衛門といふ者大変もうけ
家業おこりとのふこと安の人の名ぞうくらべ
ばくくといへどもつまらざるを長尾孫の浮世絵
ばかりにて多分しと世の評判ふんえんさうり
○七月下旬より札所の寺大門口の立札を除かる
○八月二ッ家渡通用ちがまる○八月九日大風
○九月十八日蔦谷村養雲寺熊尼寂　禄尼の尼法普く人の
知る所なりしかる異人
○今年浜辺幸菴寺　百三十才　○三時稲荷社にて今年より
大塩浜
弁逆七夜祭といふまを行ひ始む　ひる祭神社異記
ふ要しく あるせり
○十月朝鮮人来聘　正使翰養法　副使任弁幹　張書　安邦彦あり旅宿品川と
本誓寺あり　しかる除川へ引きるる由今年よりハ東本願寺

と成る　弁井自分出生　宝暦巳年　韓人の子を見るに此時自石朝鮮人おと問答あり
筆法を翰養法輯録して江戸筆譚と云ふ写本一冊あり　辛卯　延享元年十一月五日在江戸
附自石源君英　新井白蛾　後号　木下
隠居と出るもの　先ならう　○十一月廿八日親鸞上人二百五十年忌法会
○十二月八日弘天上人堂を建て位牌を命せらる
○十二月十一日申刻連雀町より出火乾の風烈しく通町本銀町本
町石町江戸同まで焼る　此時一石橋日本橋焼落霊巌
寺まで焼捨同日夜宮刻火落る　掛る不比的速焼丁
○　　八次田町焼不あり

## 延享二年　壬辰

正月八日備前中邑曾溪寂　名顧言称新八浅茅
　　紀州町妙法寺に葬る
○正月十日　一説に十日三月　正月十四日　云　風邪焉　新師寂　幼より林氏に学ぶ
　　曹洞の智識あり
○日本橋江戸橋の辺廃小路と成る○二月白石生年紅毛人乃
旅宿ふいとりて同対の事あり

○二月八日深草より本所ゟ同まて焼亡本所ハ古数小屋建ハ
○二月品川往還若松改新おなる并茅場と渡河ハ同時ふ
おなし○七月廿日日本橋府城源長氏の家長山霄子卒　巳十二才　弱冠にして
寺ふ葬を営なしてとゝ侍ハ　年山紀伊守時人侍ふ葬ふ
○九月ゟ家宅通用止
○通ゟ丁目ゟ彼岸白ふの井去歳報を入る報月を経て今
年井白ふを獲ゟり来聘の韓人朴同知源敬紀を撰今年十月
赤井游子写して朝鮮ふ献ふて

正徳三年　癸巳　九月国

正月廿七日狩野芳朴常信卒　七十八才　称右近
○二月二捉ゟ二捉ゟの船を拵ふせゝる
○同月本橋町山村長左衛ゟ居ふて助六の狂言始て興行ふ

○同月晦日江戸中白き花隊又金剛の如き物ふる
○五月二日備前大高芝山卒　名重郎　称清水　清谷長谷寺ふ葬
○五月十九日の夜蚩尤雲現ハ成ハ物ふて丑寅ゟ戌月升り
ゝ光あひゝ月元侍ゝゝ
月八ゝ　陸奥ふ雷ふて生ふ雷あり
○十二月廿二日ゟ谷ゟり品川ゟ辺焼亡
騒ゝ○今年深川二十三間堂焼亡同六年再建あり

同巳年　甲午

三月本橋町六丁目山村長左衛ゟ居ハ絶　この所俳優世為彩五郎八丈
約鏡ゝゝ　絶ふ為ふ　江戸ゟ務ふ　為ふ渡せゝるゝの時ふて
隙て本戸ふて人ふ世ふ色ゝの芸ゝて人長を勤るあるめや年ハ世ふて大坂ゟり来り
あ世の大ふ侍ハ所ゝ斎ゝ歯磨店の江ゝのひけ男ゝ沒有芸深あるめの声色を世ふ
けるゝ又紙盈町ふて山城屋ゝ江ゝ酒屋の下男芸ふ沒村半左衛ゟ声色をつゝひけるゝ
年ゝ芸ふあるふて色人ふ服を色ひゝふ本戸ふ芸ふ声色を学ふ世人感ゝ
ゝ芸江戸ふて芸ふ手練数沒世の声色をつゝふのゝゝめるゝゝ

○五月新金銀吹替○五月二日品川東海寺中之源院浩溪和尚寂（石碑院第四十長せり）○八月六日より十五日まで增上寺内常照院本堂元文の火災所蔵の木仏焼失○八月六日医師本下春林軍元文の火災所蔵の木仏焼失

○九月廿二日根津（ねづ）権現社神輿江戸町中を練廻る（廿一日より一昨日雨天成一説今日小雨なり）

今年まで一年おくれて止まり書数五十番町数百五十四丁ありしかる時の番付八曲亭馬琴の作なり

湯島三丁目より茅町通西川家西横丁田代弥兵衛通り昌平橋入弁田橋を渡り護持院裏を廻り元飯田町田安屋敷を入竹橋を出門おもりち町通りより廻り町屋へ日本橋江戸市土手を廻り西藤西丸日本橋渡り通り町筋通橋より上野を廻り石川家前茅町より本社へ帰輿あり一説あり

○十一月琉球人来聘（正使与那城王子　副使王子）

○十一月江戸銀を改て新上銀小吹替あり

○十一月十一日夜光物原己より成て光を発雷の如く震動す

正徳元年辛未

三月廿一日伯耆源見詞亭率（名直一名永常　弁述正定院小森）

○三月廿七日遠州八十才ゆえ尚齢命あり列度の案（一ヶ）表随翁（百六十七才）

小森閑齋（百三十六才）古稀宗見（百八才）石ち家芳（九十七才）十家七兵衛（九十一才）家人谷江一雲（九十一才）岩女茅子（八十二才）

○江戸日光山百年御祈忌法会あり

○正徳より享保まで中橋廣小路を盆中夜小入形

○十二月晦日夜半計り小路の口辺より火出て光蓮橋法門内教学屋敷門内まで中橋より芝橋までの町屋本挽町まで焼

翌三月元日夕方より雨

此年用記事

角力取松風弥平傳能恵之進蜜津大関となり正徳二年離別名
見子無非初代新を收む○俳人雲女冥賀園山内(梅樹二十六
株を栽る事伝播し号仙播と
○深井樵乎庵伊左衛門勢州鄭酒を多く産す　茅沢せる面白き
本もこれこの産本樵一名り享保の比なり百種の机を集め生涯を接刻しまた
地誌抄長十花林抄本草花林綱目の編集あり持ちえて世に行はる
○浮世絵師菱川師宣正徳中七十除才不して絶まり　菱川氏
懐月堂号安芳　孫伝七　この比初まる
○小丹町天王宮の時山門の造り物大根河連望りさる事正徳中
より始り今ふるまる比　小丹町天王の比張形むし八小伝馬町ふあり一を正徳
中疫病ふまし時小伝馬町の比張形なり外裏を
小丹町へうりて疫病をまつひしとう接り後ふ一まる比長く小丹町ふうつ
うりと土人の口碑ふ残り又菱川氏ふ編の潭海ゆも去ろ一るせり
○武江披砂石小石川古殿跡庶出る稲荷社八家永中和田倉御用

屋敷ふ移ふ中大岩氏伝居の時氏祖吉田家の雛堂掘り出る荻川の
疫ふ稲荷を大岩氏の祭ふるまして勧請ふ正徳中法用屋敷
一続引拂せらまを白山出殿ふ習地を下さまし時稲荷社も白山
移しけるふ幸踏の事ありて伝伝のりの掘けるふ後ふ社
引移しけるまなり
○管蘆の古来ありしふ享和ふ正徳の比築地
小笠原家乃乃具持沖家ふ移ふ安楽寺山
本居宣長翁ふ世事ふ癖ふ世事ふ
享保元年　丙申　二月閏　七月朔日改元
正月元日去年除夜の大火　今年ふ始る　烏帽子直垂の者ふ消
沢ちろひ入孔をて混雑をしふ　人形或ハ近或ハ遠のふ
けるふ打焚火の紀年ふ　十一日又池の端ふ火災して神田辺本町

石町日本橋吳服町近辺焼亡多く類焼もかけしるとて折柴
葉の記あり見えたり○同十八日深川霊巌寺辺より出火して
本所深川あまく焼亡す
○半蔵御門外橋詰門清水氏の古家のごとく通行をあらためず
○八月十五日俳人山口素堂卒 七十五才 浅草浄院に葬
○十一月廿九日夜光物飛ぶ○十二月廿七日備前藩士道円卒 名大学号菊亭
麻布善福寺に葬る○折柴葉の記成 酒井白石編 写本

享保二年 丁酉

雅楽頭酒井忠真 丁酉のとし殺生
厩橋城番酒井忠[illegible]所や葉乃書 正親町公通卿
○正月廿二日未刻小石川丸山の協徳井吉兵衛方より出火して神田

後持院の荘厳神田橋詰門内鍛冶橋詰にまて佐倉の藩邸数
宇通町八丁堀築地まて武家町屋ともに類焼亡あり
○廿六後持院を小日向の東に移させらるその跡葉雑子橋外
武家屋敷浦賀海思地にうつる○正月廿六日俳人北嶺浮世卒 四十八才
小日向金剛寺に葬る○二月十一日俳人小村捉亭卒 深川法禅寺 東珍院に葬る
○六月浜地海船松町より弱近辺迄焼亡 花万度をさらる事
今年より始まる○七月浜地海市禁止
○八月新金銀通用止 三年限り 但後止
○八月十六日大風雨家屋を損ず
○十二月十二日神田橋大工町より出火日本橋小舟町焼失
○同廿八日浅草より牛込山伏町より出火麹町に谷芝田町まで

焼亡○十二月　日田中丘隅率　武州川崎の西小向村荒ちゆ墓ちゆ名ちゆ寺ちゆ
冠芝老人と云一年過句川の流ちゆを治て功あり
為て居中の列ちゆ
かくのごとくなり

享保二年　戊戌　十月室

○二月十五日深川本誓寺にて徳ちゆ大ちゆ師ちゆ御忌ちゆ
出ちゆ歳群集して多くの利ひをうるよし江戸名ちゆ所ちゆ
○四月廿二日備前岡井黄陵率　名孝祖　称長左衛門
三河国東禅寺ちゆ墓ちゆ
○五月朔日五郎兵衛町ちゆ出火通町八丁堀辺築地まで焼亡
○五月十五日備前酒泉行郎率　名弘　称長之助　神見樹院ちゆ墓ちゆ
○六月七日本堀清水筑前ちゆ屋敷ちゆ
○六月十八日能人井出夏ちゆ我率　六十七才　本所ちゆ墓ちゆ

○七月十五日祐天上人月忌ちゆ嘉　八十二才　享保中二世祐海上人
遺跡ちゆ寺を建ちゆ祐天寺と号ちゆ
○八月廿六日備前ちゆ宅観潤率　称九十郎　初迄
流光ちゆ墓ちゆ
○四代目市村竹ちゆ郎ちゆ座ちゆ中道世ちゆ本所ちゆ回流院にて寺を
開創し城ちゆ号ちゆ位ちゆけるちゆ今年十月十日六十五才ちゆ
大往生をとげちゆ○十月四日将軍様ちゆ鷹狩ちゆ
○十月ちゆ猪五百人ちゆ定ちゆ○同十月新令銀引替ちゆ
○十月琉球人来聘　正使　紫東王子　○十二月五日小石川白山社焼亡
○後年ちゆ同所ちゆ家ちゆ所ちゆ庶法院
伝ちゆ後年ちゆ所ちゆ名をのちゆ

同　四　年　己亥

正月元日図の時日蝕　二分半　○二月十二日本町ちゆ内外神田焼亡

十日ふるりて漸く結ぶ○二月廿二日雷電たること五百年内応

○三月十八日より五月廿八日まで濃州多き縣世者疫病　貞享元年より世三年間あり

○閏十三月安房東野率　号東雄林仁斎　享年三十七才
あり　橋協福寺院の業

○江戸町火消いろは組たること○五月濃州より寺堂修復十万人
構始る　月六年九月ハいろは成就　○濃州法華の僧天社今年笑ふ罪り今の
地へうつる○九月朝鮮人来聘　正使使臣中副使黄瑞　使者明彦等
あり　藩者来朝する　此時韓人曲ることを
言ふを以て組頭生徒詩を
作せり此年の文集ホあり　○九月廿日　韓人退
国の図之　幸町家宅庭　あり　此年八千
坂辺野焼○十一月新吉原町家又七と云りの所の町人をうと
らひ御厨山の上より火操せ来りを元とする　辰巳八幡宮懸名歌あり
同年八月より二月の名異れせ
ゆを流る　○十二月九日御人天狗桃隣率　号五雲庵古町
ありて止む　秋光明寺本業を
享保五年　庚子



二月廿九日浮世絵大お摺大変ち焼亡

○三月廿七日年年刹流行町より南風烈しく毎り町日本橋
を伝ふる町ふる嘆町を三弥田辺和泉橋下谷上野坂本今戸其の端
ふ焼り漏る○上野二ヶ所門法建立

○七月廿二日伯耆中野拾遺率　五十日才名延善
保川要津ふ本業

○八月関東波ふ○八月町火消の纏ヤ組の方幟を記しる
長七尺の吹流を下又掟を記しる異幟を副ふ　此時代の纏ハ大臣
纏ハ流ふる後抱ハ　根の編を重くまと
仏ハ中ハ赤ゆ纏を重

○八月十八日伯耆移国稼業率　稼　稼率
今年の異○九月日大風

○九月廿一日白山権現ふ神輿子町より御練物を新しく
中絶

○今年冬冷気中納言為綱卿法華経を開講氏伝遍出家
ふしあり

○洞房御宴張写本　[illegible]
○吉原九郭ニ冊成　[illegible]

享保六年　辛丑　七月写

正月八日夜江戸浅草町より出火西北大風通壹丁目より京橋
本材木町八丁堀木挽町鉄炮洲築地霊巌島銀町まて焼る
○二月二日辰下刻ニ河町壱丁目裏町より出して神田多門下谷
上野江戸門焼減寺町ニ至まて焼亡
○二月廿日巳刻ニ牛込出納戸町より出火小日向小石川辺一帯ニ焼る
白山の辺より二階ヨリ日暮里まて焼る此時御通院へ逃入焼
死せる者二百八拾四人ニ云　一基の墓を立
焼る御通院失後仮御殿御普請未だ成再建あり



○同寺前ヨリ出火清水谷小川町ヘ引ケ[illegible]
○二月十五日金瞎上柳川政次年　柳川の祖なり
○二月廿日水府義公侍医吉田林庵年　八十七才岩井大蔵ニ小葬ス義子
○二月十二日水府義公侍医森尚謙年　号儼塾
○廿月法社の祭礼の時屋敷ヘ名つけする物を出す事あり
○五月神田橋内門外ニ於て古林見宜醫書講授始る　法医作
○六月十二日　茶人懸宗和年　号玄京子下谷徳雲
○素物問屋定る　中橋雲院小葬ス
○七月廿一日靏町八丁目通ヨリ妻ニ十ニ戸食酢月年小漏舎利
をおく鶴ヨリ小ヨリ又一顆をおく翌年壬寅六月朔日英昏
又一顆をおくヨリ実小室鳩小春沢墨中の人皆泣く親ヒ

号伝法院深川堂舎本を殘すて舎利の元一篇をあらはせり
文集の中にあり ○秋冥庵湛方 ○十月金銀引替
○十月湯島三丁目後藤乙次郎の家の六地蔵を六面
に建立せり 今橋場総泉寺にあるもこれなり ○十二月十日三河町より本通町筋本
材木町坂本町南茅場町八丁堀浜地迄類焼
○十二月廿七日後藤氏十一代通乗卒 五十八才
○南畝列志云まこと完しい山面の古今を博る完なりまみいまぶ
の事あり享保六年の頃黄金の丹り流れかまこいまさ年の
ぶらぶなりしを博しぬなりしを博しぬなりぬ
○芝永井町屋町冨山町博上るの火除地となり神田鍋地を
なする○あづま物語刊行 貝原篤信 土佐正遠

享保七年 壬寅

二月十五日より八月十五日まで一の橋内の御地へ法人遊賢を
召るる事始る○二月青松寺花より博上る事前廣小
路と称る○二月十八日より七日の乃法華の観世音寛懐
○五月十九日備前藩根桂業卒 名宣玄 祥方内 本所四両院に葬る
○六月市中多賀源五郎諭術義をあらり兇賊のを知書て
ちかの板木命せらる 六諭衍義は宮崎先生の訳まる 宸刻あり て病内木頭のふ
○七月江戸中男婦同座共五人を定る 伊勢町木 今不遠
○八月八日備前源見玄蕃卒 七十七才姓名を隠し書を芸に遊ぶ
親を市施主異の家を書一人あり上総護国
院に葬る ○十月千川上水青山三田の上水を止る 安永九年の頃千川上水再成
るるに天保六年
より止む ○十二月六日神田鍋町より出火神田一帯小焼亡

○小石川法華堂を不養せ所疑十二月とり貧困の病者を保めく
薬餌を与へ（ゆふ　はかの故を猶別故こいひしらこまとり故と信病人故と
りへ乞人乞人信通院市住居の医師小川笑庵と云人なり）

寛保八年　癸亥

二月十六日赤坂信濃町とり家火為出風列〻〻く芝為の久保近焼る
武家方町屋類焼歟〜○二月十五日とり三日の夕中村勘三郎
芝居百年の祭忌云新狂（きんが）七十（ぢとし）才大名等を興行に
○二月廿二日作〻本玄龍率　七十四才文山の兄弟出家
○二月廿九日能人志村垂倫率　六十三才
○三月十九日坊市人麿千年忌　二月朔日名見玉坊市社
○元孫祖宝永祖中祖二ツ宝祖ヒり宝祖通用止
○五月十四日新井明卿率　白石二男　祖信義儀号
○六月陽師深井秋水率　八十二才
○七月廿六日池上本門寺本堂再建入佛供養　宝永年中焼亡の後く
廿三世日没上人再興
○八月近江おろ〻○音羽町九丁目青柳町辺飛脚拂の時隙
賣女あり〜　野とありて時や
吉羽のろろ出
より土
蔵
○十月十日湯島天満宮造営迁宮
○十二月十日狩野洞春福信率
○十二月九日芝居町辺焼亡

同九年　甲辰　正月室

正月十二日英一蝶率　七十一才二年後義教を中取宝院不義に絶世
○正月廿九日和泉町とり出火市谷八幡町東八幡町東本横町より焼て芝
に出門焼失して十六の坂沛再建ス　本横町東火消
屋敷に出る
○弱久保八幡宮九年の災後除造成亡義造ふ〻〻〻

○甲府城焼る○二月朔詳なり　本郷より出火築地迄焼亡
○六月七日将軍水戸へ行幸　六十才
○六月廿五日東都名所長サ数十尺小路ゴシ毎一色白くなるの
晒の細きうとう○八月浅草花屋百九人小定る
○十一月廿一日郷人二世の立志率　漢学者なる丹藤氏
○宮和通暦刊行　京中根元圭編

享保十年乙巳

二月十日青山久保町より出火赤坂紀谷市谷牛込大塚高田
小石川巣鴨弱近辺下谷合羽まで焼亡
○二月五日五百羅漢堂再建法華宗成就　是家光の母元孫の菩提
市谷を勅願あり
○紀月十九日郷人菊居亭秋色率　禅世見て美のきわめても色のうきつもる

○五月十九日官儒新井白石先生率　六十九才名惟字君美
漢学者なる津藩士丹藤
○六月廿二日吉筆六代目青蓮率　五十二才
○七月廿日深川猪一寸見河東死　紀十二才天満屋茶屋所西本願寺前
ちゑ藤氏を氏速さる碑ホ十三日と称せる雅之
○九月二日高良屋武方筆死　大名藤のふうとふりくるを良武大名のうつ
いせ源川黒江町小居し藤枝と号氏
○十月大判出吹　智元孫大判出志賀多又出吹留あり
○今年長崎の人志賀随翁　百七十八才　小右勅古筆　百二才　伊藤市蔵筆　百十八才
石井勅筆　百二才　沼田伊兵　百一才　水野徳中古板　九十二才　紫田十吉筆　九十二才
下条長兵衛　九十二才

同十一年　丙午

二月七日郷人生玉梨風率　号紫屏架押ト
表芸ちゑ藤氏
○紀月廿日郷人雪女率　六十三才剃髪して紀流と号
吳服屋市会弘中懐地藤氏

○正月廿九日傷寒にて把默翁卒 自親居士と号す 市谷長安寺に葬る

○今年五穀豊饒なり ○四月廿日 天照山大吉寺 朝日如来開帳 ○五月浅草小揚の理左衛門元旦人の老母に仕へ 奇特の事ありて褒賞をのがれる 時人侍者山紀伊守あり

○六月廿日 鄙人狂閑居士卒 六十二才号会釈堂 俳諧に名ありし人なり

○今年より十七年まで深川十万坪に疱瘡あり 文化元年五月にも同様にて疱瘡あり

○十一月十八日大道寺友山翁尚歯会 志賀随翁も同席六人の翁会せりと云 姓名未詳

享保十二年 丁未 正月宝

○三月朝日夜五半時光物東より西へ流れる 花火の如くなり

○本所町家より出る火あり

○角田川水増る 梅若九百五十年忌開帳 三月十五日より開帳

○書籍穂集成 細見新友山翁八十四才編纂 享年追加成る

○五月十二日鄙人宗旨百里卒 号雷堂六十二才多田氏 別号東洋子 享年未詳 辞世の句 死て生てまた一死月をなんとせん

氏句を多く編しと云る墨花堂佐文山の著あり 詩人雅懐八百里の西方あり壮盛なりして明を失ひしと云 寛延元年七月六日お玉が池にて没す 法名 松濤院

○六月上旬より本所番場辺 常陸屋阿波大杉大明神 花柳りあるいて共讃群集一万度 家業繁盛あるを以て 英雄あるを

○釜師定林卒 月日未詳 ○十月七日 竹材木町 四方屋 養子

又四郎妻ゑま 義子代忠八 刑せらる 四方屋人の勘当あり

○十二月十日表二番町より 紺屋町 永田町 麻の実虎の門久保町あゝこゝ作詩上手 裏門芸術多まして 焼亡 より 紺屋町 通り 明地となる ○十二月十日鄙人志邑佳風卒 四十四才 法名 大雄寺に葬る

享保十三年　戊申

正月五日清水如月寺　七十二才陳名今孫七郎兼氏ハ横山町小袖一郎兵衛をうしなひ又ものくの細工をよく作り生涯江戸名所名物ハ
載うり出子宇平次甚流し居り老母ハ茶屋あり又文ハ側て細工ハ
ゆゑ世雑談集くはしく書紙ハあり宇平次ハ安永三年六月廿九日終寿

○同六日狩野如川周信寺　六十九才

○正月十六日夜光り物飛ぶ　○正月十九日宗信僧侶と縁出元宝寺
六十三才久義院称徳寺号　○日蓮宗雲源寺ハ家康の祈願を求て
三田長松寺ハ蓮寺
八宗を定む井上通憲の序うみあり八宗ハ　能波義陸　黒鍬義雲　茶畑蔵ノ
暮蔵烟雨　神羽老拷　出家なり又当世の　協仁出家康　隅田秋月　利根遠帆
十三宗の祈願ハ法華宗酒の機ハり

○二月十六日猿楽町より出火小川町一ツ橋法門寺武家ハ一番
類焼　○二月廿三日宗宿山寺源光
○正月廿日儒師板倉復軒寺　雑司谷法明寺ハ墓ハ板倉
忱五の墓も同所ハあり

○昔町麹町元山王永田町猿楽町小川町早稲田町堀田町辺の家作
茅葺葺を止る　○七月二日連雨降師星村仍民寺　九十九才
○七月京仲の町小歌舞をおこす　角町中百字屋の名妓公家といふるものの
三四名ハいろ〳〵名所霊をまつ　京保十一年午三月廿九日死せり今年
ばるをなぐむ始ハ切子ところろうあてあり　仲の町張や虎文楊屋町　松屋八女　市大夫　ゆる去
あり一とゝりこと一玉屋追放祇さうし　ありしとゆる
河東節の上るり作　小川破笠の奇巧より反東本こくみ井
○八月廿日夜とり九月二日二日ハ大風雨ありて洪水流出民家
橋和泉橋柳橋二日の久方流流る　二日朝西丸橋中程
二十六間切流出新大橋西の方巾二丁程切る永代橋ハ番所の井
ゆへ古橋抗流る下谷流茶の内俗き高ハ軒端ハ水ひたる小石川
流出橋ハ水小橋流出同白山流出て上水の白堀埋る鍋遠流
門昌平橋の二橋流損ふ　川ハ仲間年秋十一月ハ出る

○十二月出来永川端廣うら弁財天小日向辺大名の部屋形式紀自中ありしなり

○九月幽谷師傳後好義禁寺率　名邦達　泉岳寺小僧

○十月江戸日宗寺小異不毋祈像を安置　日法上人俗孫金　伊人孫田系伝来

○江府神社畧記刊行　荒井志敦編

享保十巳年　己酉　九月閏

四月廿七日國学者源光海率　名良吳称宮内七十才　青山玉窓寺小僧

○二月十六日飯田町坂上武家方ちうか火　金田系図　市谷説ちう　因安虎門和尚焼の

和田用地小減る○五月交趾國の鄭大威（陳ちう）という者廣南國の廣大家（ちうなん）

海を　去年六月長崎へ牝牡二匹を渡す牝六長崎に於て斃る今年四月牡一匹を大坂へ

牽来り同月京都へ入内へ牽く五月廿五日江戸へ牽て牡六中邪小あり二月寶蓮寺

小斃る之を胥今も中邪寺に小あり之の時京師中

獨神家の伝弁あまたありしが中小世小変ずしなりとい

江戸の業をうけつぎのまりやこ一身をもむるもまこと御代として　烏丸光栄に

この時中村三近ら編の家の貢自物等ら多家貢珍記又編者西和家志などいい出

京形せり江戸の俳人仙寿ら自小　今やひく家士の孫世ちうこつむり

山王山家小礼の時稲町ちう大家の俳

物をいうに事この時のまねびあるとい

○十一月廿二日書家後藤保考率　号鶴溪翁　称清助

芝新堀住雲ち小業に

同十五年　庚戌

四月江戸町火消に十七組を十組小定ちる　目下右業の弱形あり縄の吹流

七組あり後小本組ち来て江戸八組と成小懐止ち止て止ちこの時小組に十

小縄ち多大縄小まこれとも升　張箔なり

○二月十八日隅見十方恵事自体絵　九十才本に行町　流光ち小業に

○二月京醫宝瑞廿五冊刊行

○江戸本坂氷川明神今井谷八幡さま社法建立あり廿六日迄天有

○高田八幡文殿損ちうこれて表多七左手を造りて五月十五日ちう

日数五日の乃地内に於て勧化能興行　検校金二分ヒ一分二朱
一人分限二ヨツテ有り

○五月金札銀札出る年の通り通用御免

○六月十六日後如軒志賀隨翁卒　百八十三才天徳寺
中西別院に葬

○八月廿九日大風雨源川世三郎堂潰れ築地大破あり

○十月鶴ヶ崎ヶ崎疫病流行　多くの人死
羽をぬる

○ヒトトリ習年寄ホいくり麻疹流行

○ヒトトリ新田を寄うる　去る戊申年ヨリ絶ホ久賀沼を新田ホ開キ
ヒトトリ田畝ヒトトリ源友濤と云ふ者を撰ホ

あつらへ出ヲ命せらるる今年も又　命ありて寄新田文年流秀と倶ホ出ヲ願ひ
多くの切を立てられ出ヲ願ひ出ヲ願ひ出ヲ願ひ出ヲ願ひ
見立掛金の二歩の内ヲ以て六百の地をあひ沼戸邦田川の辺にも郎地をあひて乃沼川運
漕を事ホ命せらるる出ヲ願ひ出ヲ願ひ出ヲ願ひ出ヲ願ひ
与潰れ
なり

享保十六年　辛未



○五月八日将軍葉川古信卒　三十六才

○同月十五日西北大風年中刻同日基武家方ヒトトリ大火辺のこと
正初寺も焼失関に西ヒ町改代町辺中里赤坂の社も武家組
屋敷牛込市谷辺逆坂上下ヒ塔場まて新焼同時麹町二丁目須
賀町に花火茅場ヒ門外ヒトトリ市場塔場ヒ外橋内廻ヒ実辺諸
侯屋敷邸虎御門幸橋ヒ焼出ヒ宮社残り久保町芝に通町筋神
明宮ヒ浜地海辺ホ残り暮方時残る武家町ヒ社駅紀
迄焼あり○五月廿一日宮儒安見晩山卒　名元乃　称文平
藤邦芸稽ヒ著

○七月十二日業人野田弁蔵卒　名久忠　極楽ヒ
苦仁ヒ著

○八月十一日夜ヒトトリ十二日辺八時まて大風十七日夜廿九月二日大
風雨○九月十七日将軍永ヒ憲信卒　二十才

○十月十二日日蓮上人臣百五十年忌法会あり
○十一月十二日耳嚢降　○十二月十九日備前吉田帝奥率　称蓋八二本板
兼綴る
水葬を

享保十七年　壬子　五月至

正月十二日備前矢野稲荷祭率　称蓋乃称平
○二月十二日光宮下青松ちとり　乃河流星る水葬
ちとり新橋と焼同日小河白山
ちとり水松平田あり長郎水いる
○三月増上寺柵門内子聖檜現勅請
○二月廿八日浅草平蔵ち門前ちとり芝大浅草下谷辺寺社町方共
焼亡　氏階地家大隅のくあり水猛屋町福家町寺代内
町屋を　百よりく生　田平平智地を下しあり
○祇田明神橋門再建立　町くちとり神の能八月の三分一を見猿り令三百両を
収ぶ生服代家町人ちとり寄附をもて建立



○浅草寺命院より上京祈田医師の職を東師寄附
○岩船地蔵堂再建　○天下飢饉疫病行る
○六月十二日鼠為抜風率　八十六才西年紀中　浅草寺水葬仏
金華率　巳十五才祥源寺の沼上為店　蓮光寺水葬仏文殊寺水葬仏
○冬流鶯名人栗本光寿率　八十才　祇園水居せり鶯の空とり賀味を丹珠
ゆくまでよく　○青〳〵　扇流　明見入乃法入編写平あり芳安
世の法ホいう　第百の法ちとり世上の風俗を速ぐる之
○江戸町方初鞠流七巻刊行　第巻出深の編あり後附れホいうち男
恒寿彩冬流補正再刻　今以て世ホ記る

同十八年　癸丑

玉流苦寺奥山ホ梅樹を植　○二月桑酒林信充月蓮宮堂流行
ホ拾ん十二景の詩あり　十二景ハ　能度義法　秋文遠新　流壁川夕照　梶本村
田家　玉ち深林　平塚落雁　鶴壷秋月
深井夜雨　墨堤山桜雪　玉ち川帰帆
中里鮑滝　西原晴嵐

○冨士浅間宮神殿とり上者信濃守小笠原忠真公寄進ス今年六月十七日山の七八合国ヲ以て絶死ス　青山海蔵寺ニ墓あり

○二月より四月院ヲ以て城及浅草観音釈迦如来開帳

○去年の流行病疫病　○七月上旬より疫病天下ニ行ハる十二百十日

大洪水米価高騰ス　疫神乃形を造りて送ル　紙衣

数を為ス　○十一月より海辺ニ多ク海辺ニ多ク　○洪水ニ付古歌をあつる

○七月八日より築土明神社神輿世話人　八月廿八日まで

○八月六日金剛山横谷宗珍率　東本願寺中　名号碑ヲ建ル

○八月十九日夜より夜ニ入りまで大風雨を潰す

○川崎宿長ス観音の霊験海中より上る

○九月将軍御養生信濃国の鞍、武馬を画ける絵を浅草寺へ

抱く　○江戸名物志云江戸の町人加賀屋長兵衛清故豆ヘ忠義を

見ること比類無し　○十月浅草鳥越谷村巴塚の絵を拵て今者是ハ御隠居沢村長十郎ヲ縁ありしいとり

○江戸名物志六十性の人を異ニして云江戸庶宗助と高人え孫中安の大火ニ焼木

木の焼ひを求め又渡船院の石塔を頂ハ又今年目黒横丁川渡

の石を集りて次第ニ社を築く大ニ限となり年沢町ニ住せりこと云ふ生せる格ふを

江戸庶宗助子と云ふ宗助五十才計りにて子供

世を出づ慈悲ニして百家と云ふと云ふ

享和保十九年　甲寅

二月廿日汐浦ヲ谷村の涙鯨二ツ流寄る五尺　二尺　あ丈揚辺度切ニ

て着せ拘と云　○二月廿五日儒師国中葉陵率　二十六才　山谷

○三月廿一日弘法大師九百年忌　法会を設く　増宗院ニ葬

○四月廿四日紀伊安産文吉寺ニ死ス　西国巡礼文吉と云ふ御号千山と云ふ　増宗院ニ墓あり晩年ニ小川一の名居乃

例ニ居して終ル

○七月廿五日世上へ毒の降るといふ噂して井戸へ蓋をおく

○八月十二日宮僧宗旨巣出家年七十八才通称彩加後の春甲賀町住大塚持院東農家の後ろに葬る

○九月十日御師桑名貞作卒　六十九才本所法恩寺に葬る

○十一月宮医平田二英法華法の七宝瓦鉢冊を弘む

○十二月本所小法華疫疫

○大坂寺社把茶掛江戸へ下り見られる義経の浄瑠璃ちかい所なる把茶掛八処寺社居所定と成る

享保廿年　乙卯　二月廿

二月廿日浅草家義士二十二回忌法華堂の斎会石碑を建る終て

南條小兵衛撰なり

○三月十九日儒師山田藤深卒　名弘嗣孫大作谷中南泉寺に葬

○二月本石町へ初て人参座を置る町医岩田玄洛杉山養元契

参を制せ同本下濱仙見元人参獨参湯を弘む

○角觝人九山接を左馬之長浦出て後○紅板の名号回向院中庭

合運　ちか　○同所平十郎新小社開帳○東叡山小右衛天宮建

○五月七日書家佐々木文山卒　七十七才浅草上寺中浄運院に葬る

○五月晦日儒師奪見爽鳩卒　四十六才彩加　山源寺に葬

○七月二日黒雲天を覆ひ大風雨を発し所々家屋を損ぜ流巻

ありといふ○秋深川八幡宮の境内に御師祇園を祇園天神宮

て神ふるまひ小祠を建る　吉田家小中結あり〜九之といふ祇園祭に高張十八

年巳月廿二日と申雲寺宗祇法師墓の例に葬る

○十月麻布宮焼亡○青木寅陽　名文蔚　石碑を夢りて寺落を

○十二月廿二日細井廣澤卒　七十八才　名こく力村法名ちゑ　門人平林
陳伝　長谷川文鳥　菖蒲　冥思菴　二井親和
孫益道　法名教善
男を九皐和文という

## 此年間記事

同月　[illegible]る懺ち寂剣金晃羅権現社造営　或説因社八宿開古しとゝりは
情しけるこ寛政元年八月九日　時代再興ありてより猶人も
巳十時境内等附ありしこゝ
○葛西米因稲荷社　平井雷天宮　柴宿
○江戸中瓦葺　浅草門瓦あり
○中野村桃樹を栽しめる○深井柚本屋伊平衛　百樹の楓を
養う○武蔵こ繼上市高保の江とり始るとり　湖因間答ふ八ん
こう　但し裏付上市八その
ゆをとり及元ゝ
○神田明神社神事能八大和市とり連綿こりしこ高保世平葬
義弟道具を収し金庫新燒せしとりまのこゝ



用ふ云市古名飛ふ屋基と号しこう物を[illegible]しこう場風造りの屋根巳本柱のとげ雲
ゆて表体黒漆塗ふあり千市ふ入形茅葺荒まのあしこらひあり是を[illegible]ふ法つて[illegible]
千費ゆしを金て二十巳五ゆを限りとし江今のゆ一つ本の費ふも是〜江和價の減しく
且貨素ちゆを乃ろへしこの屋蔵の外ふも消繁と号し所の移り物をもおせしこあり
屋蔵八享保六年ふ出停止ありて千後ふ[illegible]ゆ一ちりを[illegible]江宝暦の江とり消繁ふ
ゆしこの貨素ふ[illegible]て踊基の四面ふこ一こうけを[illegible]こひ女子二人ゆしこびて物をうけ唄を
こうこひこ陳せんを深繁のちりあん八紅緞の裏つけこうこ[illegible]をうむる踊子八千ゆみて
踊る所を教八寛政日後の内ゆり物語八日後の上の方へ紅ゆて弱こう男子唄こ味線を
ゆ江ゆ八ゆこうこ扇獅子こいふ物をうむこと安永江ゆまその
ふ江ゆ八ゆこうこ扇獅子こいふ物をうむこと安永江ゆまその
風俗ありこて天保中後こう一を鼓打坂田市立所のこゝあり
○此時代書家　巨林作　細井廣澤　森井清水　僧東洲　作〜東文山
号左沢まこう　○芝東禪寺住侶尾張国英雲と云知ふして家
元の体を刻意一時他ふ物を將こう後個体及ひ南郭ふ学んて詩
風を変江生事を江陵集こふ
○京保中荷田春海東旅作り國学を変振江元の中至ゆる
○此江流行ちる境内ふ於て霊真金こいりの辻[illegible]義ふ我云を安く

人の業をとる者ともいふ法華堂の事おろそかなる事なり
志道軒いはの昊金を出す似せるものありしかも座敷芸なり
○時計茶器とり渡る○江戸中書院御とぎ茶屋の所役
ありしてかろく止さり○源世繪師　奥村文角改名　芳月
仙花紙　名居清信　同清信　迎義勝五郎清喜　冨川吟雪房信勝等
行る○浅草宮古稲荷後稼享保の末京都より一時に
行る　この時京後稼の風俗を出の似せく鬢に文金風とそとげの稼を実に元結なく巻
鬢にて鬢の毛を下ろ上へ引き上月代の除毛を巻込て結ふ夜新く剃て
の羽織を着し長き刀を出す小さくむまとひ下駄の歯
ありる格ふして稼の格ふしさしまたは代の風俗
○半左衛門　宮半左衛門流絵を浅草の後絵師に学ぶ
一家を家に別製して板木梁をこしらへ　河東節　半左衛門
○松浦氏五郎板田氏に仕官ふ公家あり小唄流行　享保年中の稼業
○大吉三郎小うた流行　中村吉右衛門とつる所後後者の似ありて
へ〜へ声曲新製手引り

○養右撲流行　柱女玉菊おく生
○栖原角兵衛の著振表とり帆柱を負く切かけ早く行る
久しうして止む　大江戸表
○品川入谷山稲荷社山王享保乃
はまて家居もあり〜ら今八町並ありて社里民の家ふ五
しを遊行上人行化の時上人ふたゝび勧請せりとあり
○大久保七面文列西法寺むり〜接の名所ふて表毎年歳
此所ふ拝観せり表時山と号するもこの西にあるへし享保の頃表
接も殘り〜ら遊観の人八稀なり〜中程下高いり
○連雀町八節遠信門の内頃田町の続ふて〜ら班所廣協とありて
今の西引けさるハ享保のちあるへし
○享保の末横山町の伝外屋佃兵衛清右行徳村地先字ふ二子町と

居りしが所の人深川と云ふ所に又新田を開き深川と云ふ
とりの字を書きし深川を後年に情新田といふ
○世初武蔵の界隈に近頃坂ふ夜毎ふ鳴物の音あり笛鼓又人の呼声
ふして井ふ老人の声一人あり辺を江戸とりも変ふ人多し方十
万ふ寄しとて盥を書ふ寄り止 大江戸表 秋ヤリカ

元文元年 丙辰 五月七日改元

正月仁風一賢上梓公布あり ○彼岸会宮板
○正月九日茶人所長九内率 号丁臣 之編 如来ふ不業に
○京霊生財光源寺張子沢新田向院ふ子ふ寄根
○同真如堂本堂湯しふ社地ふ寄根 ○五月ふ字会銀通用六月
引替始るとりふ 文会銀 ○六月廿日園林行率 動海と号ふを号に 法華ふ子ふ安ふ不業に

○七月下旬より東の方ふ赤気早あり 赤五月 に有り
○八月品川 品川 大統寺ふ長道子の筆ふ有る補陀山法海寺立ふ
観世音像を写して得を立る 素人疫伯喬写し 加茂氏造立
○八月晦日吉原ふ仲率 八十一才 仲率 除に付ふ不業に
○十月小梅村ふ子猿を持させる 背文ふの字あり 今年 猿に付ふも後法あり
○十二月江戸大雷 合運 ふか ○十二月ふ大煩ひ多く死に
○武蔵国地名考梓行 稿毛氏上総国村百姓 田沢保之 帝義章 一すとの日記梓行 釈法編 編

同 二年 丁巳 十一月園

二月十六日より虎ふる観世音寄根
○二月廿九日円白ふ動ふる新長谷ふる時の法花堂撞初めあり
○正月廿五日盛時邪山の辺より流れくる物ふ稲田町ふりを

表き人家ホ損セ○五月三日下谷八幡町より矢大臣流士町を上野廣小路池の端東叡山並眼黒に出て坂本今戸箕の輪まで焼る○七月十九日書家沈永道雲率（名英長象剣を号く陸奥産の人なり）

○八月川に居る比ホ沈魚ホ羅り〳〵ら式部より再建の彩奉加をもとむ男女老稚日毎ホ募縁の弄をうそひ紙をなら〳〵市中を辻行して絶紙を募る九月ホ到りて信止せ〳〵る事歳出て生この奉加の事を掌まるの文あり則此生の文集ホ載さり（生文面白けれとも略れハ記さず）

○花名る少く桜樹を栽しめ〳〵る因所（俗言呼風鄙文を撰走（今俗ち伝蔵宵闇傷鼠の疑〳〵而之書ふ一川の名も無所の説ホとろそ比〳〵ろ名つけ〳〵まし〳〵せん）○八月廿日儒師宗重恭率（称志右衛門伊勢戒行ち号）

○毒戸又深川小奈木川ホて溝渠あり小奈木川の字あり表の輪或ハ背面ホ川の字あり

○十月十日夜五時星月を貫く（東より月中ホ入り南方ホ出る）

○十月七日世上一同ホ燈の如う飛ぶ物吸ホ火事の如し此節暖気ホして筆せし桜花咲○閏十月十二日二世英一蝶率（通称長八浜川陽嶽ち号）

○十二月十日水府廣信安樓滄海率（号光牛居士の十一支ち舞水先生の門人）

○薩摩芋洪ところとり追く弘まる宝暦ホ到りて上総下総生産ホ

元文二年　戊午

二月彼日夜五時比光物飛ホ

○二月廿九日儒師阪内東溪率（名陸奥陸奥率蔵ち号ハ）

○四月廿七日書家園秀行率（林氏の門名義号称持率陸奥ち于宗安ち号ハ）

○五月函賀長八名居建（変唐風ハ出奈良水）○五月五日儒師八江大華率（名淡字子量下谷常林ち号ハ）

○五月十日儒医徳力恭軒卒　号有隣日暮里南泉寺に葬る　○冥土問答

○七月廿七日俳人源川瀬十卒　六十余才一号老鼠山谷宗林寺に葬

○洞房塵雪梓行　序司馬江漢

元文四年　己未

今年浅草寺久しく中の折節花を山の樹を移りなきに

お枝の色香見まくもあすう山花のところの基も知るべし

○牛込前栄寺子授現寂帳　○回向院にて二月廿三日寂帳

○幸所押上にて鉄鐘を鋳又平壮村因にて鋳鐘あり

○二月廿四日神田明神下より出火柳原まで焼亡

○十月浅草寺にて出開帳を行なる　○米穀相場高値

下谷の出棺米あり　○十月廿三日儒医宋如軒卒　名洪漠大塚氏厩畠に葬る

○十二月晦日日暮里長福寺にて自殺落合先生を葬る武乃

真間を尋ね頼り拾ひて耳国を葬せり同日宇内にて絶望

し中見えず墳墓も同寺あり　自殺落先生通称山崎三郎右衛門といふ

の和号あり性質気随にして士官を辞し後不治を好み俳諧をたく

して其門に拾ひ　風俗文集二冊　不思議庵芳巳拾二冊刊行せり

同五年　庚申　七月至

回向院にて伝灯苦光寺如来寂帳

○伊勢屋府の所の法泡江戸にて寂帳　○二月十一日南部の二男

慮卿疱瘡に罹りて卒　十七才称禁三郎とい不来海の中に林院葬る　幼名

○七月朔日書家隆清来海卒　名維章根岸若竹に葬る

○俳人清水紹波卒　三十六才法名称会に葬る　○九月一日本浅草元祖宮古路

豊後掾死　○人形くい人羅々姫業を変へて出来り　至七月

作る○十月廿六日東湖徳川師叔　小石川二百坪邸照院に葬を終出の歌文あり

世年間記事

小金井村（こがねむら）多摩郡　小和田吉野常州桜川の桜の苗を栽植る　始め寛永のむし植させおひしに西ありしに変事の故にまたかれ植しめられしといふ　○武蔵志料に云玲瓏の森に清玄院址ありある説の烏石に麻布雑色町（ざつしき）の住人吉川と云ふ者身を奪て奪ふと是今も西の名を奪ふと呼ふ元文の比烏石（うせきろん）論辰巳の名を世に知せんと出ふを於の森に移し植めしを図と限りあり書物の虚名を好むかなりしこと

○平林惇信（ひらばやしあつのぶ）俗称庚五郎　文政年間遠藤清左衛門と云家町の帳面に清左衛門書を能くせし大福帳の上書して賞事黄ありしに清左衛門を

きもめしに依て沢辺仲蔵の大方彼に上書を求しに惇信に



細井廣沢に門弁入能書の法を受ありの○石碑の深様板に彫る市松形とりふ事に舞妓浅妻作狂川市松好こと是しるなり○舞子の花のんさ一名有り

寛保元年　辛酉　二月二日改元

正月廿日書家鄙士清友吉文政辰年　七十一才号友亦事故大名に書を

○二月九日浅草氏十二代茅屋寂年　五十四才○二月吉原仲の町に接を栽植む　寛政二年の例による○二月朔日雲光院和尚要河寂

寛政二年の例に倣て

せし

○永代橋の橋脚の補修○七月廿七日儒師佐藤一斎年　六十木

下

○七月廿日新井宜卿年　白石男

○十二月廿五日捨流剣術祖

る本多忠博卒　法号林昌寺に葬る墓あり　辞世の句形刻てあり

仏弾あり

同　二年　壬戌

正月下旬より東方へ曉七時ごろ彗星あり 長サ一尺五寸程

○六月六日御人早駕巴人卒 六十六才

○七月廿八日より為隆卿八月朔日益八半時より大風雨夜毎に止事なし 大水漲り出て新潟川人家を浸し大川通り多く数列に成る 文政橋は長崎中島橋抗を流し永代橋新大橋損隅田川土手切る 菖蒲の根を押入千住土手切る 五日又利根川堤切る 浅草御蔵多く破り溺死多し 官府より諸船を出さるく数艘を小屋を建て食物を与る 八日九日又大風雨あり 下旬より出て引く 実に前代未聞なり 諸藩装束の得失 彼元斎ものを撰せ

○文政橋角に月より活善法中出来 翌年亥五月刀称上流以来

ふるひ三年ふるひ 文政元甲子五月元のごとく活善法成る

○十一月故実書本邑の敷率 芸東雪号 子義氏

寛保三年 癸亥 巳月至

二月朔日より上野清水観世音堂 久ちかなる 開帳 ○二月九日より 浅草乳山聖天宮開帳 ○同日より 浅草観世音開帳 ○三月十五日より 芝切町某所 ○二月十五日より 穴八幡宮内観世音開帳

○三月十九日より 芝切町某所 境内に井の形弁才天開帳 此比友人蘇子より開帳記と云一冊子を借りて寛保二年より天保八年迄の開帳悉く集記せりよりて手抄して記す 故に寛保六〜〜ゝ迄八跡あり

○花色山の花を押花といふものあり 実播上人より 冷泉家故実村〜〜系〜〜せ〜〜ゝる附えそりて

折枝のむらもの品〜あまたの山時ゝの花の基のうち一番 時風ゝ

○二月朔日より浅草観音院観世音開帳 日蓮宗本堂

寄帳為後年天寄帳○同日より王子稲荷同稲荷寄帳
○同日より日蓮宗法華堂人形邪寄帳
○同日より六阿弥陀仏寄帳　沙基井ゟ二十三年京紙屋長
○二月六日医師平戸百里率　号雷山又茅庵七十九才法華堂の招院ゟ
葬儀和尚を能せ一人之同門ゟ百里二人
あり一人ハ御師三浦百里　雷山と号し浪士べうこと
雷山徳右ゑ門寄帳○同日より市谷八幡ゟ始て野州東ゟ雅山医ゟ
ゟ来師蛇来寄帳○同日より池の端ゟ始て比叡山坂本ゟ来
る狸師寄帳○六月二日鹿形乾山率　八十二才号陸省絵ハ三河法橋
光琳の兄ゟ来ゟ出ゟ八雅ゟ陶器ゟ
坂本ゟ来ゟ来ゟ来ゟ
○寄二月勧進比丘尼中宿を借ゟる　寛保元年の頃ある
比丘尼八丁堀町ゟ
橋田辺の武士と懇ゟ情配せ有ゟ比丘尼町中ゟ
十帖ゟ云外田ゟ有ゟを上ゟ　ゟ稲田ゟ
を上ゟ八丁堀町ゟ
細加ゟ笠ゟ有ゟ　正徳三年ゟ　徳ゟ流芳庵ゟ
つまる金堂同を
ゟ有ゟ云く○七月朔日より俵屋流芳町法華寄帳
○同日より阪田町世渡稲荷寄帳
○同日より市谷八幡ゟ二月八日風車ゟ日輪院ゟ動ゟ寄帳
○十一月上旬より夜ゟ弥陀為の方ゟ現ゟ　稲荷
ゟ

## 世年間記事

御徒宮通江戸ゟ世六人あり　剛ゟ
人の輝ゟて千ゟの秋ゟ御書ゟ
ありゟゟ人ゟ世道の喪ゟ
○宮ゟの地ゟ山猫ゟ

武江年表巻之四　畢

編者　商業市左衛門幸成

# 武江年表後編

從延享元甲子年
至嘉永元戊申年　四冊出来

嘉永二年己酉十月刻

發行書林

大坂心齋橋通博労町　河内屋茂兵衛

江戸日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛

同　淺草茅町二丁目　須原屋伊八

京都三條通井屋町　出雲寺文次郎
大阪心齋橋筋北久太郎町　河内屋喜兵衛
同心齋橋筋安堂寺町　秋田屋太右衛門
江戸芝神明前　岡田屋嘉七
同日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛
同横山町三丁目　和泉屋金右衛門
同本石町十軒店　英屋大助
同神田旅籠町一丁目　紙屋徳八
同大傳馬町二丁目　丁子屋平兵衛
同日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同日本橋通二丁目　須原屋新兵衛
同日本橋通四丁目　須原屋佐助
同神田通新石町　須原屋源助
同淺草茅町二丁目　須原屋伊八

国立公文書館
National Archives of Japan